江東未来会議
第3分科会（健康・福祉分野）
第6回 議事概要

日時：平成20年1月31日（木）19:00～21:00
場所：江東区文化センター2階 旧区政PRコーナー
参加人数：14人

1．開会

2．本日のワークショップの進め方について

【事務局より資料説明】

3．ワークショップ

（1）全体討議1

作業

事前配布済の提言書にもとづいて、各自意見等をA4配布用紙に記入。

発表

で記入した用紙をもとに、各自発表。

（発表）

参加者

- ・「（1）医療・介護・高齢者福祉」の現状と課題について医療従事者の不足とともに、医療技師、レントゲン技師などのほか、福祉介護士や理学療養士などが不足していることを明確に書いた方がよいだろう。また、こうした養成機関があれば、職住近接の状況がたもたれて、医療関係者が不足するようなことが無くなるのではないだろうか。
- ・「（3）高齢者・障害者等の自立支援」について、ろうあ者などの情報弱者は、現時点では区報やインターネットホームページなどからしか情報を得ることが出来ない。これだけでは大規模災害時などの情報収集が困難となるため、区が主体となったメディアを立ち上げて頂けると良い。
- ・「（1）医療・介護・高齢者福祉」の将来像について、特別養護老人ホームは1年も2年も待機が必要になる。特別養護老人ホームに入るまえには、老人福祉保健施設でのリハビリなどが多く、3ヶ月後には退所となり、特別養護老人ホームには入れずに在宅介護に戻ることになるが、在宅介護ができないことも多い。老人福祉保健施設と老人ホームとの連携が重要であり、スムーズに移転出来るような体制ができていくことが望ましい。

参加者

- ・「(1) 医療・介護・高齢者福祉」の現状・問題認識で、「同時に、こうした「質」を担保するためには…」以降をこの提言書に盛り込む必要があるだろうか。
- ・南北問題について話が出ているとおもうが、提言書では十分に触れられていない。例えば、「(2) 老若共同参画社会の推進」の現状・問題認識に、南北で人口動向が異なるため、それに合わせた行政サービスが異なるという話を追加してはどうだろうか。

参加者

- ・提言書が絵に描いた餅になるのではないだろうか。将来的には財源がどの程度確保できるかによるのではないか。
- ・後期高齢者医療保険制度について詳しく聞いてみると、これから医療水準は低下していくように思われる。こうした中で、果たして「(1) 医療・介護・高齢者福祉」の将来像が実現できるのだろうか。
- ・また「(2) 老若共同参画社会の推進」の実現に向けた具体的な事業のアイデアで、「高齢者の生きがいづくり」は、施設をつくることも重要だが、そういった場に入っていけないような引きこもりがちの高齢者をどのように誘うかが難しいのではないか。
- ・同じ箇所に「若年世代の健康づくり」とあるが、今の若い世代には保養所を使えるような時間がない。この分科会で取り上げる問題ではないが、若者の健康づくりでは、就労管理が最も必要なのではないだろうか。
- ・「(3) 高齢者・障害者等の自立支援」の実現に向けた具体的な事業のアイデアで、「高齢者向けの住宅整備」や「低収入層に対する経済支援」についても、将来的な財源をどのように確保するかが問題になると思う。

参加者

- ・火葬場については将来像の中で落ちている。この点はすぐにでも取りかかるべき具体的な提案であるので、「(1) 医療・介護・高齢者福祉」の「老後も安心して住むことが出来る総合的な福祉サービスが提供されるまち」に盛り込んだ方がよい。

参加者

- ・「(3) 高齢者・障害者等の自立支援」で、一人暮らしの高齢者や障害者が災害時に不安を覚えないようにするため、押しボタン式のブザーを配布して頂きたい。
- ・また、高齢者・障害者の見守り隊を募集して、取り組みを進めてはどうだろうか。そのためには、まち毎に人の輪を作るのが大事だろう。
- ・今、冬木に居住しているが、お祭りや餅つきなどの行事をさかんに実施している。こうしたことで人の輪ができるので、「(2) 老若共同参画社会の推進」の将来像の中にこうしたことを盛り込んでどうか。また、こうした取り組みを通じてボランティアを募るといふことも考えられるのではないか。

参加者

- ・提言書は行政に頼っている内容が多いように感じる。具体的な取り組みについても、ボランティアの募集や参画・活動などを具体化するような内容が盛り込まれた方が良かった。
- ・ケネディ大統領の就任演説における「あなたの国家があなたのために何をしてくれるかではなく、あなたがあなたの国家のために何ができるかを問おうではないか」という言葉と同様に、区政に対して何を求めるかではなく、何を協力できるかという視点からの検討も必要ではないだろうか。

参加者

- ・「(3) 高齢者・障害者等の自立支援」については、要介護にならないための予防が重要ではないかと思う。全体を見ると、消極的な方向になっているように思う。例えば病気になる時にどうすればよいか、ということが重点になっているように感じるが、健康高齢者になるための取り組みがあった方が良いと感じる。
- ・まず、大きなテーマとして、健康高齢者対策を積極的に打ち出し、細かい施策をアイデアとして提示したい。
- ・例えば、高齢者の健康づくりに関するとりくみを進めた方がよい。また、食生活も含めた生活改善も盛り込んだ方がよいのではないだろうか。また、高齢者のスポーツの支援や生涯学習の支援、各種サークルの支援などについても、もう少し区が積極的に取り組んだ方がよいのではないか。
- ・「(2) 老若共同参画社会の推進」とあるが、高齢者の知識を活かすとか、地域福祉推進などに関する記述が見られる。現状は、シルバー人材センターなどもあり、文化財保護などでも高齢者が活躍している。こうした取り組みをより進めていき、高齢者の生きがい対策についてもう少し力を入れたほうがよいのではないか。

参加者

- ・「(1) 医療・介護・高齢者福祉」について、救急設備やヘリポート等の最新設備の整った病院について、それなりの設備投資が必要となるが、誘致するというのも必要ではないか。
- ・老人施設についても、必要です・不足してます、ではなく、具体的に をいくつまでたてるということを出した方がよいのではないだろうか。
- ・小中学生が老人ホームを訪問し、老人の世話をするというのを、授業カリキュラムの中などに入れた方がよい。
- ・また、一人暮らしの高齢者が何世帯あるかを整理した方がよいのではないか。あわせて、ボランティア活動した人に対して、他区の例でもあるが、ポイント制度を行っているところもあると聞いており、こうした点も追記してはどうだろうか。

参加者

- ・「(2) 老若共同参画社会の推進」の「 高齢者の生きがいづくりと社会参画の促進」とあるが、内容が非常に固い。

- ・これに関して、すぐにできるであろう取り組みとしては、各町内にある空き店舗を活用して、老人や若い世代が気軽におしゃべり出来る場をつくることが考えられる。こうした場合は、仲間づくりなどにも役立つし、子育て世代に対するアドバイスなどを通じて、日々の暮らしの励みになるだろう。こうした場があれば、地域の社交の場になるのではないか。
- ・会話は脳の活性化につながるのではないだろうか。

参加者

- ・提言書は非常によくまとめられていると感じた。
- ・しかし、支出を伴うものが多く、提言で終わるのではないかと危惧している。特に「3. の将来像の実現に向けた取り組みの方向性と具体的事業のアイデア」の内容を考えないといけない。
- ・医療従事者の育成や介護メニュー・施設の充実、ホームヘルパーの育成、福祉施策の実施体制の再整備、福祉関連施設・制度の整備は、大きな財政支出を伴うものであるため、実現が困難だろうと思う。こうしたことを提言書として記述して良いのだろうか。
- ・「(2) 老若共同参画社会の推進」の取り組みで、「空き校舎を活用するなどしてサロンや交流場所の設置を進める」というのは非常に良いと思うが、管理運営をどうするかという問題がある。
- ・なお、サークル関係の援助は区でもかつて実施していたが7～8年前から廃止になっているという現状がある。これも、財政上の課題が取り組みに影響を及ぼす例の一つであろう。
- ・75歳以上の高齢者の不安が増えるので、その点についてどうするかについても検討が必要である。

参加者

- ・ホームヘルパーの育成ということが書かれているが、こうした人を育成しても活用する場がなければならない。
- ・ひきこもり高齢者についても、様々な企画を行っても参加しない人が多い。こういう方々をどうやって表舞台に出していくか、コーディネーターの役割がないと活性化していかない。一方で、ひきこもり高齢者対策については、個人情報保護ということが問題となる。
- ・バリアフリーについてであるが、特に道路はバリアフリーにただだけでは高齢者や障害者は出歩けない。通路の確保による安全性の確保ということも考えないといけない。
- ・世代間交流ではボランティア活動だけを掲げているが、もう少しなにかアイデアがあると良いと感じた。
- ・具体的な案をもう少し出さないといけないと感じた。

参加者

- ・国債の状況などをみると、今の日本は破産状態である。こうしたことをふまえると、消費税は今後必ずあがっていくと思う。そうすると年金が目減りする。その対策は必要だ

ろう。

- ・自分の親を扶養出来る若い世代はそれほど多くはないのではないかと思う。子どもの教育費や生活費が非常に高くなっている。そのため、私は子どもには面倒をかけたくないと思っている。
- ・もうすぐ 74 歳になるが、日々50m ほど泳いでいる。少し働く場所が欲しいと思っている。ハロワークに行っても、70 歳以上というとまず採用されない。雇用の場が少しはあると良いと思う。

参加者

- ・文章を私であつたらこうしたいということを整理した。
- ・まず、前書きであるが、「高齢化に対応するための～」を「今後は高齢化が確実に進むことに備え、医療や～」にしてはどうか。
- ・また、「医療・介護」ではなく「医療・介護・高齢者福祉」とした方がよいし、「自立」も「高齢者・障害者等の自立」とした方が読みやすいだろう。
- ・現状及び問題認識では、「江東区内～」で、「体制が「まだ」整備されていません」としたい。
- ・また、先ほどの他の方の発言にもあつたように、介護予防の話を入れた方がよい。「介護保険を～」の一つめのポイントの2行目、「今後高齢化～」の箇所で、「介護予防の諸施策を進めるとともに、施設の整備と、介護従事者～」としてはどうか。
- ・4ページの の項目の3行目の冒頭に「同時に介護予防の運動が浸透し、要介護となる人が減少しています」を追記してはどうか。
- ・5ページの は、「若い世代の健康「も」～」の方がよいのではないだろうか。
- ・6ページの については、「障害を持っている人自らが関与し～」とあるが、「高齢者や障害を持っている人自らが」とした方がよいだろう。
- ・13ページの「高齢者向けの住宅整備」であるが、概要で「共同住宅「等」」の方が良く、「高齢者等の健康づくりの取り組みの推進」の概要でも「施設「等」」としてはどうか。
- ・皆さんの意見の中で、いろんな施策のアイデアが出ているので、後半部分を整理するとより充実するのではないかと感じた。

参加者

- ・何をいつまでということがテーマになるだろう。それが曖昧になっているように感じるが、そういった趣旨を盛り込むことができないだろうか。
- ・全体として、高齢者、障害者に内容が偏っていると感じる。「老若共同参画社会」で「若」の側が、「老」をどう取り入れるか、受け取るかといったことがあつた方がよいだろう。例えば、教育の現場で「老」をどのように活用するのかということが重要だろう。
- ・ここに書いてあることが区の権限の中で収まるという点について、検討が必要ではないだろうか。介護保険についても、国がやるべきことについてまで記述しているように思える。また、成人後見制度については PR としてあるが、区の権限として何処までサポート出来るかについて検討をしたい。
- ・低所得者層への負担軽減とあるが、施設の利用料金の低減だけでよいのだろうか。

- ・言葉の使い方も含めて、具体的な内容にしていければよいかと思う。

(2) 全体討議2

(1)の発表内容について全体で議論し、修正点の確認を行った。

(討議)

辻ファシリテーター

- ・行政に頼りすぎており、区民の役割を明確にしてはどうかというご指摘があった。これについては、老若共同参画社会の中で将来像として追加する方法も考えられる。
- ・また、財源に関する話がないと絵に描いた餅になるのではないかと、また、スケジュールが必要ではないかと、というご指摘があった。ただ、今回はあくまでも基本構想でありそれをうけて基本計画をつくるという趣旨であり、あまり具体的な数値目標を設定することは難しいのではないかと思う。
- ・具体のアイデアで健康管理を捉えた方がよいのではないかとご意見があったが、6ページで記載されている内容でもある。一方で、若い人については5ページに記載しており、この関係についても整理しておきたい。
- ・高齢者や障害者向けの施策に偏っているのではないかと、若い人は健康づくりだけでよいかと、というご指摘もあった。
- ・また、ボランティアなどの活用についてもご指摘があった。

参加者

- ・ボランティアで活動している例もよくわからない。ボランティアを集めるということも含めて、どのような活動をしていくべきかの検討が必要ではないか。

参加者

- ・ボランティアでごみ拾いをやっているが、希望者が多すぎる。また、声かけなども取り組んでいる。

辻ファシリテーター

- ・提言の中に、区民自身が参加出来るボランティアの推進を含めるというご指摘だろうか。

参加者

- ・今のボランティア活動支援は、江東区の社会福祉協議会のボランティアセンターが、区からの委託事業として実施していると思う。区が、ボランティアセンターに取り組みを指示することは難しいのではないかと。そのため、この提言書にボランティアのことを盛り込むことは難しいのではないだろうか。
- ・あと、基本構想のために今回の提言書を作っていると理解している。であれば、市民レベルで、行政に対して、こうして欲しいというものを明示すべきであり、ある程度行政依頼型になるのはやむを得ないのではないだろうか。

参加者

- ・ボランティアは自発的なものであり、行政サイドからいろいろとやるものではなさそう。
- ・ボランティアニュースというものが発行されていて、どういうボランティアが必要かについても記載されている。ボランティアの情報は江東区でもかなりの部分が得られるのではないかと思う。
- ・ボランティア登録すると、事故があった場合の保険加入が可能である。
- ・今回の提言書の位置づけであるが、区に対して基本的にこういうことをやって欲しいという場がないので、それがこれにあたるのではないだろうか。

参加者

- ・江東区のボランティアセンターは弱体である。ボランティア登録者は 3,000 人を越えたと聞いているが、センター自身は人数も少なく職員も忙しそうである。
- ・こうした状況から、区がもっとバックアップした方がよいと感じており、こうした内容が盛り込まれていると良いのではないか。
- ・例えば、江東区にある企業にボランティア活動させる仕組みを構築することができないかといったことが考えられる。企業に勤めている人をボランティアとしてどのように活かすのかという点について、その仕組みやバックアップについては特に取り組んで頂きたい。

参加者

- ・11 ページに「若年世代の健康づくり」があるが、その具体的なこととして、30 歳～40 歳代の健康診断の回数を増加するといったことを、具体的なアイデアとして追加してはどうか。
- ・ボランティアに関する内容を記述することには反対ではないが、社会福祉協議会は行政から離れていこうとする傾向があるので、書いても絵に描いた餅にならないかという不安がある。

辻ファシリテーター

- ・財源やスケジュールが具体的に記述されるべきという意見があったが、基本構想という性格上、10 年先にこうあって欲しいというものを描いて頂いている。今の状況から実現できないだろうという話になると今までの議論が崩壊してしまう。
- ・あまりにも非現実的なものは除いて、可能性があるものは入れておいた方がよく、リアリティにとらわれすぎない方向で議論することでご理解頂きたい。
- ・その他、若年層については健康づくりだけでよいのか、という議論があった。世代間のコミュニケーションに関する具体的なアイデアを、という意見もあったので、次回までに考えてきて頂けるとありがたい。
- ・また、健康管理については、生きがいにもつながるのでクローズアップしてはどうかという話があった。自分で実施できる健康管理の取り組みを行政が支援してはどうかという意見があったが、内容的には将来像では、P 5～6 だと思う。

参加者

- ・健康管理については、社会福祉協議会の中で、認知症予防とか介護予防などの取り組みがある。しかし、江東区はまだ区が本格的には力を入れていないのではないかと。
- ・区が本腰を入れてバックアップしないといけないのではないかと。

参加者

- ・介護予防の主体は社会福祉協議会ではなく、保健福祉部介護保険課ではないかと思う。そのため、区としてどうすべきかという内容があった方がよい。

参加者

- ・未来会議は区民からの応募を募って実施している。そのため、区民ができる範囲で取り組みをすすめ、その上で区民だけでは出来ない部分について行政にお願いするということを求められているのではないかと思う。
- ・健康管理については、まず、自己責任としてやった上で、それで足りない部分は区が補うという考えにした方がよいと思う。

辻ファシリテーター

- ・将来像としてこういうこともあるということ今回は整理しており、その上で、誰が何をするのかということについては具体的には基本計画で記述することになるのだと思う。
- ・介護予防については、6ページの を追記すると良いのではないだろうか。さらに全体の順番を変えるということも考えられるがどうか。

参加者

- ・ の内容が一番上にあるという方がよいのではないかと。

辻ファシリテーター

- ・その方向にするが、もう一度ご議論頂きたい。
- ・次回は特に、取り組みについても議論したい。次回は今回の成果にもとづいて、最終的に提言書をまとめるということをお願いしたい。

4. その他

【事務局より提言書の構成及び発表会実施要領等について説明】

【事務局より基本構想審議会委員の区民選出枠（5名）について、各分科会から1名を選出し、人選は審議会の男女比、年齢比等を勘案して区側で選定することを説明、参加者からの了解を確認】

以上